

廃木材よ…よみがえれ！！

廃木材には「マテリアルリサイクル」により与えられる使命がまだあります。



廃木材の利活用、このままでいいのでしょうか？

現在、廃木材の利活用について議論される際に、常に話題の中心になるのがバイオマス発電を中心とした「エネルギー利用」です。再利用することが出来ない廃棄物をエネルギーに還元することは非常に有効な活用法であると言えます。

しかし、「エネルギー利用」する前に、今一度考え直して下さい。

その廃木材は「マテリアルリサイクル」が出来るのではないのでしょうか？私達東京ボードグループは皆様とともに「マテリアルリサイクル」の手助けをさせていただきます。そして共にCO₂削減を図り、地球環境をより良いものへと改善していきましょう！木々に永遠の命を与えたい…。それが東京ボードグループの使命です！！



東京ボード工業株式会社
本社 〒136-0082 東京都江東区新木場2-11-1 TEL:03-3522-4138 FAX:03-3522-4137
新木場工場 〒136-0082 東京都江東区新木場2-12-5 TEL:03-3522-1524 FAX:03-3522-1525
埼玉工場 〒340-0835 埼玉県八潮市浮塚100番地 TEL:048-996-4541 FAX:048-996-4562
横浜エコロジー株式会社
〒236-0003 神奈川県横浜市金沢区幸浦1-4-2 TEL:045-778-1153 FAX:045-778-1154
ティー・ビー・ロジスティクス株式会社
〒340-0835 埼玉県八潮市浮塚100番地 TEL:048-994-1311 FAX:048-994-1315
TB関西物流株式会社
〒630-8452 奈良県奈良市北之庄西町1-6-11 TEL:0742-50-6222 FAX:0742-50-6667

私達は
地球温暖化防止に
全力で取り組みます

「とうきょうさんぱい」

通巻第四二四号

令和八年一月一日

発行人 鈴木宏和

発行 一般社団法人 東京都産業資源循環協会

とうきょう さんぱい

第42巻第10号 通巻第424号
424
令和8年1月1日発行

新入会員と協会役員との懇談会

- 安全衛生推進委員会 東京都労働局との合同安全衛生パトロール
- 国内処理施設見学研修会／第1回「資源循環と環境を考える全国大会」
- 医療廃棄物委員会 医療廃棄物研修会を開催





AFUSO リジェネラティブな未来へ

■廃棄物(産廃・一廃)の再資源化率 100%

- ・廃棄物から化石燃料代替品のRPF(固形燃料)やフラフなどを製造
- ・廃棄物のマテリアルリサイクル推進

■船舶輸送によるモーダルシフト

- ・プライベートバースを設置して船舶輸送を推進

有明興業株式会社 ARIAKE KOUGYO CO.,LTD.

ISO14001 認定取得
ISO27001 認定取得

本社・全工場
本社・若洲工場・リサイクルポート

●若洲工場：東京都江東区若洲2-8-25
●リサイクルポート：東京都江東区若洲2-8-17
●若洲倉庫：東京都江東区若洲2-3-14
●町原工場：千葉県市川市町原2-9-1
●八丈島工場：東京都八丈町八丈東大塚町2316-1

本社：〒136-0083 東京都江東区若洲2-8-25 TEL：03-3522-1911 FAX/03-3522-1919 <https://www.aknet.co.jp/>

環境負荷を低減し、よりクリーンな社会へ

※わたしたちのとりくみ

- 資源を再生する
- 省エネを実行する
- 省燃費で運転する
- 会社周辺の環境を整備する
- グリーン購入を心がける

※事業内容

- 産業廃棄物処分業(コンクリート塊 破碎 2,040t/日)
- 産業廃棄物収集運搬業(保管施設を有す)
- 廃棄物(汚泥、高圧釜、鉄さい)
- 積替(上記以外)原油、重油、空缶くず、ガラス、コンクリート、陶磁器くず、破砕じん、粉砕じん)
- 陸上運搬はもちろん、海上運搬も
- 汚染土壌の陸上海上輸送 ●再生砕石、再生砂散泥

日栄産業株式会社

〒143-0003 東京都大田区京浜島3丁目5番2号
TEL.03-3790-7400 <http://nichiei-sangyo.jp>

ISO14001 認定取得
ISO27001 認定取得

収集運搬業 6-22-40022
中間処理業 6-22-00027

株式会社
京葉興業
URL <https://www.keiyokogyo.co.jp>

快適な環境づくりと
自然との共生をめざして

京葉興業グループ
処理方法

- 中和油水分離
- 発酵整菌
- 乾燥
- 生物処理
- 脱水
- 破碎分選
- 混練固化
- 破碎
- 焼却
- 凝集
- 圧縮圧縮梱包

JQA-EM786 / ISO14001
認証範囲はHPでご確認ください。

< 京葉興業グループ > 実績と信頼のもと 多様なニーズにお応えします

株式会社 京葉興業 〒133-0061 東京都江戸川区篠崎町1丁目2番6号 Tel03-3678-0111 Fax03-3670-9140
三和清運 株式会社 〒133-0061 東京都江戸川区篠崎町3丁目2番6号 Tel03-3679-8555 Fax03-3679-3855
株式会社 ビー・アル・クリエイト 〒289-0511 千葉県旭市鍋木3484番地1 Tel0479-68-4808 Fax0479-68-4809

都市更新を下支えする 企業を目指して。



地球を守る 確かな技術

城南島第二工場

- 産業廃棄物処理施設
破砕処理施設・脱水処理施設・造粒固化処理施設
- 汚染土壌処理施設

e Synergy System

SEIYU
成友興業株式会社

城南島第二工場

城南島第二事業所 東京都大田区城南島 3-2-11 TEL : 03-3799-8111 FAX : 03-3799-7788

CONTENTS

新入会員と協会役員との懇談会	2
安全衛生パトロールを実施しました	8
令和7年度国内処理施設見学研修会 第1回 資源循環と環境を考える全国大会	10
医療廃棄物研修会を開催	16
中間処理委員会〈破砕・圧縮分科会〉 施設見学会	18
中間処理委員会〈中和・脱水分科会／焼却分科会〉 合同施設見学会	20
青年部だより 大阪近郊廃棄物処理施設、大阪・関西万博視察及び 関西ブロック青年部との交流会を実施	22
理事会・委員会報告 第102回理事会、総務委員会	25
女性部だより 第4回 全国女性部会のつどい	26
新入会員紹介 [賛助会員] コマツカスタマーサポート(株)東京関東カンパニー	27
行政だより 高度再資源化設備導入費用を東京都が一部補助します!	28
産業資源循環情報 [No.50] (株)サナーズ 株式会社サナーズ 処理ラインの適正化と 機械能力の最大化に向けて 4Sのススメ	30
Tea Break インド旅行記②	32
協会の主な今後の日程	35
事務局だより・編集後記	36
表紙の言葉	31
身近なヒヤリ・ハット事例 Part 197	37



新入会員と協会役員との懇談会

東京都産業資源循環協会は、令和7年11月5日(水)13時30分より協会会議室において、新入会員と協会役員との懇談会を開催しました。令和7年3月31日から令和7年9月30日までに入会された正会員5社、賛助会員10社を対象に開いたもので、10社の皆さまにご出席いただきました。(取材 塩沢 美樹)



後列左から 松浦氏 (リズム)、與儀氏 (アーバンテクノリサイクル)、福山氏 (福一興業)、菊池氏 ((一社)JBRC)
松田氏 (ティー・アイ・シー(株))、都築 常任理事、細沼 副会長、五十嵐 副会長、鈴木 専務理事
前列左から 庭月野氏 (ペイニング)、永富氏 (浜田化学)、鈴木 会長、納氏 (住友建機販売)、田中氏 (真空企業)
吉実氏 (拓実興業)

■ 自己紹介・意見交換 (抜粋)

司会： まず、正会員の方から、福一興業さん、お願いいたします。

(株)福一興業 福山 俊大氏： 当社は水道関連事業として東京都内を中心とした公共水道工事と、建材関連事業として建設副産物のリサイクル、汚泥の中間処理等を行っています。本社は練馬区で、事業所が江東区の湾岸事業所(汚泥処理プラント)、埼

玉島の和光事業所(改良土プラント)、神奈川県横浜営業所の3カ所あります。私自身は、今年の12月に事業承継という形でこの業界に入ってまいりまして、この業界の問題意識や課題等を勉強させていただければと思っております。



協会役員： 技能者をなかなか雇用できないという話を聞きますが、御社はどうですか。

福山氏： そうですね、最近は運転免許を持っている人が少ないとか、採用はできてもなかなか定着しないなど、問題も多々ありますが、いま、高卒2年目の従業員が頑張ってくれています。当社では様々な制度・手当で安心して働ける環境を作って、採用活動にも力を入れています。

司会： 浜田化学さん、お願いします。

浜田化学(株)千葉営業所 永富 聡氏：



弊社は主に飲食店から出る廃食用油の回収、処分を行なっています。本社は兵庫県にありまして、京都、名古屋、富山、静岡、千葉、高松に営業所があります。千葉県内で新しく処分場を立ち上げる予定です。この業界の問題や課題を共に学んでいきたいと思い入会しました。

協会役員： 御社は廃食油だけを取り扱っておられるのですか？

永富氏： はい、そうです。廃食油は多方面で注目されていて、都内でも争奪戦になっています。

協会役員： 回収後は、どのように活用されるのですか？

永富氏： 適切に処分させていただいて、バイオ燃料や飼料・バイオプラスチックの原料などとして出荷しております。また海外にも独自のルートで輸出しています。廃油から高品質の脂肪酸を抽出し、つくられたオリジナルハンドソープは環境と素肌にもやさしく、脱炭素・SDGsに

取り組まれる会社様にも好評で喜ばれています。

司会： 続きまして、拓実興業さん、お願いします。

(株)拓実興業 吉実 竜二氏： 当社は、建設現場から出る産業廃棄物の収集運搬業務を主に行っています。本社は調布市で、東京都内を拠点に、関東全域から東



北、中部、北陸地方を含め、全国規模で産業廃棄物の収集運搬を行っております。協会で会員の方と交流を深めさせていただいて、事業を進展させられたらと思いますので、よろしくをお願いいたします。

協会役員： 御社は建設廃棄物、混合廃棄物などを取り扱っておられるのですか？

吉実氏： はい。そのほか、汚染土運搬、残土処分、建設用資材販売なども手がけております。

協会役員： 当協会の建設廃棄物委員会が主催する研修会などに参加いただければ、情報共有ができたり人脈が広がりますので、ぜひご活用ください。

司会： リズムさん、お願いします。

(株)リズム 松浦 嶺氏： 当社は、本社が山梨県にありまして、廃棄物処理・リサイクルをメインに行っています。私自身は業界に入ってまだ日が浅く、現場を見ながら学ばせていただいているところです。ぜひ協



会でいろいろと勉強させていただければと思います。

協会役員： 事業は山梨県内が中心ですか？

松浦氏： 富士吉田市を拠点に、収集運搬から処分まで、弊社グループで一貫して行っています。

協会役員： 建設廃棄物はどんなものを取り扱っていますか？

松浦氏： 建廃の主要8種類を取り扱っていて、主に関連会社の㈱ワン・スリーで中間処理をしています。

協会役員： 解体工事もやっておられるとのことですが、東京で仕事をされることもあるのですか？

松浦氏： 割合は少ないですが、東京でも仕事をしています。

協会役員： 当協会の会員さんと積極的に交流していただき、ぜひ仕事でも都内の会員と連携していただければと思います。

司会： 続きまして、賛助会員の方です。住友建機販売さんからお願いします。

住友建機販売(株)東京支店 納浩三氏：



弊社は名前のお通り、建設機械油圧ショベルの製造と販売、リース等を行っています。東京都内は江東区と多摩、そのほか千葉県、埼玉県をはじめ関東圏内にお店を構えています。いろいろ勉強するために入会させていただきました。今後ともよろしく願いいたします。

協会役員： 御社の新型油圧ショベルの

性能がとても良いと聞いています。シェアも伸びてきたようですね。

納氏： おっしゃる通り、去年最高で19%になりました。ありがとうございます。さらにシェアを伸ばせるよう、協会会員の皆さまにお願いしたいと思っています。

協会役員： 離れた場所から操作できる遠隔操作の重機を御社でも開発されていますよね。重機の周りに人がいなければ人身事故も圧倒的に減るので当業界でも注目しています。

納氏： はい。当社研修センターで試乗することも可能ですが、現在の5G通信では、オペレーターの技量にもよりますが、細かい操作はまだ難しいです。6G通信が実用化すれば、もっと精度が上がると思います。災害発生時には人が立ち入れないような場所でも活躍しますし、人手不足や高齢化の解決にも役立つので、期待していただきたいです。

協会役員： ぜひ協会機関誌に広告を掲載するなど、PRの場としてご活用いただきたいです。

司会： アーバンテクノロジーさん、お願いします。

アーバンテクノロジー(株) 與儀千晃氏：



弊社は神奈川県川崎市に本社を置き、これまで神奈川県を拠点に活動してきました。本年5月に当協会に賛助会員として入

会させていただき、事業エリアを都内にも拡大しました。人材サービス業を主軸にしており、派遣事業と、請負業務を

行なっています。協会会員の皆さまの人材不足にお力添えできればと思っております。

協会役員： 常時作業員は何人いるんですか？

與儀氏： 全体で200名です。

協会役員： 例えばの話ですが、うちの会社でちょっと人手が足りないで10人ぐらい派遣していただけないか、とお願いしたら可能ですか。

與儀氏： はい、そういうのが当社の事業ですので可能です。

協会役員： 当協会でも困っている会員はたくさんいらっしゃると思いますので、賀詞交歓会や懇親会等の場をご活用いただき、ぜひアピールしてください。

司会： 真空企業さん、お願いします。

真空企業(株) 田中康信氏： 当社は「集塵機」「ブローア」の設計・製造・販売を行っております。私は、以前は総合化学メーカーに就業しておりました。



退職後は環境関連の仕事をしており、2年ほど前に縁がありまして当社に入社しました。当協会の皆さまと密な関係を築きたいと思っておりますので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

協会役員： 集塵機とブローアは、我々の業界では、施設を持っている会員はほとんど設置済みだと思いますが。

田中氏： すでにそうした装置を設置していらっしゃるお客様でも「お困りごとはありませんか」とお聞きす

ると、色々出てくるケースが多いですので、その辺を足がかりに、コンタクトさせていただいています。

協会役員： 当業界の処理施設は、どうしても埃が多いので大変です。

田中氏： 埃が多いので困っていらしたある企業様で、当社が協力させていただき、結果を出していただいた実績もありますので、ぜひ、当社にお話をお聞かせいただきたいと思います。

司会： ベイニングさん、お願いします。

ベイニング(株) 庭月野賢秀氏： 当社は静脈産業に特化したM&Aのアドバイザー業務、資金調達のコンサルティングを行っている会社です。立ち上げて3年目の会



社ですが、個人的には約20年このビジネスに携わっています。色々勉強をさせていただきながら、動静脈連携のサポートですとか、また静脈産業自体をもっと発展させるお手伝いできればと思っています。どうぞよろしく願いします。

協会役員： 当業界では承継者がいないという業者がとても多いですよ。

庭月野氏： そうですね。当社でも事業承継のご相談が増えています。個々のお客様の経営課題に応じ、必要であればM&Aや提携を提案させていただいています。

協会役員： M&A関係の営業のダイレクトメール(DM)がとても多いですよ。

庭月野氏： 確かにM&A仲介の業界ではそういう営業が横行してしまっているのが現状ですが、当社ではDMや電話営業



安全衛生パトロールを実施しました

安全衛生推進委員会（細沼順人 委員長）は、10月7日(火) 東京労働局と合同で協会会員の処理施設で安全衛生パトロールを実施しました。今回も前年に続き東京労働局の地方産業安全専門官にご同行いただき、大谷清運株式会社と株式会社 東京クリアセンターの工場をパトロールしました。

（専務理事 鈴木 研二）

1 大谷清運(株) リサイクルプラント RE-BORN2010

はじめに大谷清運(株)のリサイクルプラント RE-BORN2010 を訪問しました。冒頭、細沼委員長が「パトロールで危険箇所を指摘するだけでなく、良い取組、良い刺激をいただいて業界に展開させていただきたい。」と挨拶。東京労働局の照井地方産業安全専門官からも「協会の大変積極

的な取組のひとつ。大変有意義な貴重な時間だと思っているので、一緒に取り組ませていただきたい。」とご挨拶をいただきました。

工場のご説明をしていただいたあと、さっそく工場内のパトロールを実施。その後会議室に戻って講評と意見交換を行いました。



大谷清運(株)リサイクルプラント RE-BORN2010 にて

（講評）

- 安全作業に関する横断幕が各所にあり、わかりやすかった。熱中症に注意の表示など暑さ対策にも配慮されていた。
- 工場の出入口付近に従業員全員が見れるように安全の掲示板がある。身だしなみチェックの姿見（鏡）も取り付けられており非常に良い。
- リチウム電池・バッテリー類を保管する密閉の保管容器があり、火災防止に努めている。
- 場内が整理整頓されており非常に作業がしやすい環境が作られている。

業内容ごとにエリアが分けられている。

- 場内の通路が広く、作業ごとに分けられ、人と機械の接触防止が図られている。
- 瞬間冷却剤が、部屋の奥でも取りやすく、熱中症対策の配慮がされていた。
- ベルトコンベアの最後のところに手が入らないよう黄色の格子がついていて非常によい。

安全衛生推進委員会は今後パトロールの結果をまとめ、両社に報告する予定です。

2 (株)東京クリアセンター リサイクルセンター

続いて(株)東京クリアセンターのリサイクルセンターでパトロールを実施しました。こちらも工場内をパトロールしたのち会議室で講評と意見交換が行われました。

（講評）

- 工場内が余裕をもって作られており作



工場内をパトロール（東京クリアセンター）



東京クリアセンターにて

令和7年度 国内処理施設見学研修会 第1回 資源循環と環境を考える全国大会

令和7年10月30日(木)～31日(金)、北海道苫小牧市及び札幌市において当協会の令和7年度国内処理施設見学研修会及び全国産業資源循環連合会等主催の「第1回 資源循環と環境を考える全国大会」が実施されました。当協会からは会員30名と顧問弁護士の芝田氏が参加しました。概要をご報告いたします。(専務理事 鈴木 研二)

(主な日程)

日 時	行 程	場 所
10月30日(木) 14:00	(株)マテック苫小牧支店 SR 工場見学	苫小牧市
10月31日(金)	14:00 「第1回資源循環と環境を考える全国大会」	札幌市
	17:00 同 交流会	

1. 国内処理施設見学研修会

まず30日午後、北海道苫小牧市の株式会社マテック苫小牧支店SR工場を訪問。「資源を限界までリサイクルすることを目指す」同社の苫小牧支店SR工場は、軽量物工程、重量物工程、細粒物工程の3つの工程により、従来の技術では回収が難しく埋め立て処分されていたシュレッダーダストを限界まで選別しリサイクルする。はじめに(株)マテック苫小牧支店加藤営業次長より概要の説明をいただいたのち、工場内を視察。磁力選別

機、渦電流選別機、メタルソーター複合センサーソーターなどの最新装置で選別する様子を見学した。広大な敷地のなか最新の装置で高度な選別を行う様子に「これまで見た施設で一番勉強になった」との声もあった。

加藤次長の説明のなかで「じゅんかんコンビニ」の話があったので、工場見学後に移動して苫小牧市内の「マテックじゅんかんコンビニ24拓勇店」を見学。じゅんかんコンビニ24は、古紙や金属製品、小型の家電製品など不用になった



(株)マテック苫小牧支店 SR 工場



(株)マテック苫小牧支店前で

資源物を回収する無人の回収ステーションで、24時間営業。受付機を来客が自分で操作し受付を行ったのち、持参した資源物を種類別の回収ボックスへ入れる。持ち込んだ資源物の種類と重量に応じて「リサイクル貢献度」が付与され、「500点」に到達すると商品券や電子マネーと交換できる。



マテック「じゅんかんコンビニ24」

2. 資源循環と環境を考える全国大会

翌31日14時から、「グランドメルキュール札幌大通公園」(札幌市内)で、(公社)全国産業資源循環連合会、(公財)日本産業廃棄物処理振興センター、(公財)産業廃棄物処理事業振興財団の主催による「第1回資源循環と環境を考える全国大会」に参加した。

(1) 主催者挨拶

【全産連 永井会長】再生事業等高度化法が本格施行されることを踏まえ、「産業廃棄物と環境を考える全国大会」から「資源循環と環境を考える全国大会」に名称変更した。

(2) 来賓挨拶

【環境省環境再生・資源循環局 角倉局長】循環経済への移行は、温室効果ガスの削減、国内の資源循環、再生材の利用を促進し経済安全保障や産業競争力の強化、さらに地方創生にも貢献するもので、国家戦略として取り組む極めて重要な政策課題だ。昨年夏に第5次循環型社会形成推進基本計画を閣議決定し、循環経済への移行を国家戦略として明確に位置付けた。循環経済が国家戦略であるということは環境省のみならず政府共通の理解となっている。令和6年12月には関係

閣僚会議で循環経済移行化加速パッケージを閣議決定。令和7年7月には大幅な組織改正をし、再資源化事業高度化法や産業廃棄物処理業の振興は新しく設置された資源循環課に移行、産業廃棄物の規制に関する業務は廃棄物規制担当参事官室において対応する。今後とも資源循環産業の発展に力を尽くして頑張ってもらいたい。



第1回資源循環と環境を考える全国大会



環境省環境再生・資源循環局 角倉局長 挨拶

【北海道 三橋副知事】 資源循環産業への移行を目的にすべし本大会を新たに開催されることは社会経済情勢の変化を的確にとらえられたもの。道としては今後ともリサイクル関連産業の企業と連携し3Rの推進や循環型社会ビジネスの振興などに取り組み環境と経済の好循環のもとで持続的に発展する北海道をめざしていく。**【秋元和弘 札幌市長】** 持続可能なかたちで資源を有効利用する循環経済への移行は、今や世界共通の喫緊の課題。札幌市は2050年までに温室効果ガス排出を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」の実現を目指している。脱炭素の取組を推進しつつ、持続可能な社会の実現に向けて力強く前進していく。

3. 講演会

(1) 環境省 環境再生・資源循環局

角倉一郎 局長

「循環経済を国家戦略に」

- 資源循環の取組は環境保全の枠にとどまるものではなく、日本の政策のど真ん中として追及すべき重要な課題。当初、循環経済を国家戦略にという言葉は日本政府のなかになかったが、ずっと言い続けてこれがとうとう閣議決定政策のなかに入り、総理の発言のなか



角倉局長講演

にも入るようになった。

- 循環経済への移行は日本の未来を拓く鍵である。循環経済は、一方通行の線形経済から脱却し廃棄物を資源として活用し資源効率性をあげることで付加価値を生み出し新たな成長の扉を開く持続可能な経済システムである。循環経済をつくりあげるうえでそのど真ん中にいらっしゃるのが本日お集まりの皆様方だ。
- これから資源循環型の企業がどんどん成長していく。諸外国では資源循環の観点から規制強化がどんどん始まっているし、多国籍企業においても再生材の要求に対応できる部品メーカーから納入するという動きが顕著になりつつある。循環経済に対応できない企業はサプライチェーンからはじかれる。一方でこの分野で先頭を走っていれば新しい成長機会につながる。
- 脱炭素化の推進、CO₂排出量の削減は資源循環なくしては決して到達できない。例えばアルミ缶のリサイクルをすると天然資源（ボーキサイト）から作るよりCO₂排出量は9.7%削減される。
- 経済安全保障としての資源循環について言えば、まずレアメタルは様々なナショナリズムの動きのなかで輸出管理



講演資料より

強化が強くなっている。ベースメタル（鉄等）もますます資源管理が強くなり、いつでも安価に簡単に輸入できる時代は終わりつつある。日本がものづくり大国として成長発展するためには海外の天然資源に依存するだけではなく国内の有用金属の循環利用を進めることが極めて重要である。

- アップル、BMW、ルノー等多国籍企業は再生材の活用を前面に打ち出している。再生材の利用が製品の付加価値を高めることにつながっている。EUでは域内の廃棄物に含まれる資源がEUの外に出ていかないように資源循環の点から様々な規制が始まっている。
- 例えば自動車のプラスチックでは再生プラを25%以上使用しないとEU域内で販売できないという規則案（ELV規則案）がいま議論されている。まだ決定されていないが順調にいけば2031年から新しい規制が始まると言われている。
- 鉄スクラップやプラスチックをきちんと活用すれば天然資源の輸入量を減らすことができ海外への国富の流出を減らすことができる。例えば、鉄スクラップ輸出のうち800万tを国内で粗鋼原料にすれば輸入を約2000億円減らすことができる。日本経済を強くすることを真剣に考えるのであれば資源循環の取組は欠かせない。
- 全国各地でスクラップヤードが増えていたがそうしたスクラップヤードを通じて鉄、アルミ、プラスチック等が海外にどんどん流れている。せっかく日本で資源循環を頑張っているにもかか

わらず日本国内で循環するには至っていない。

- 鉄スクラップは国内で年3700万tが国内循環しているが700万tが国外に輸出されている。自動車についてもリサイクルされるべきものが相当程度海外に輸出されている。プラスチックもリサイクルされたプラスチック素材の7割が海外に輸出されている。日本国内の資源循環の輪がうまくできていない。個社ベースでは優れた資源循環の取組があるが、流通網として整備されるに至っていない。
- こうした状況を踏まえて今後どう進めていくか。ひとつは再生事業等高度化法。11月下旬に政省令が施行になる。循環型ビジネスモデル構築支援として3年間で300億円以上の予算が既に用意されている。こうした予算を最大限活用して後押ししていきたい。事業者への説明会も予定しているので是非参加していただきたい。

(最近のホットピック)

① 太陽光パネルのリサイクル促進

昨年8月に中央環境審議会に太陽光発電設備リサイクル制度小委員会を設置。2030年代以降に太陽光パネルの排出量が顕著に増加。年間最大50万t程度になる。現行法ではリサイクルを義務付けていないため最終処分場の残余容量を圧迫し廃棄物処理全体にも支障が生じる恐れがある。

ガラスの資源循環が進むよう質の高いリサイクルが必要。一定の技術を有する太陽光パネル再資源化事業の認定制度を創設し質の高い費用効率的な資源循環

を後押しする。認定事業者への太陽光パネルの引き渡しを義務付け、確実な再資源化を実施する。再資源化費用の納付を製造事業者等に義務付けること等により再資源化に要する費用を確保する。

② 廃棄物処理法等の改正

- ・不適正ヤードへの対応について、現行の有害使用済機器保管等届出制度の見直しを含めたヤードの環境対策強化方策を検討している。
- ・PCBについては、PCB廃棄物の適正処理へ向けた制度的措置を検討している。
- ・災害廃棄物の処理体制の強化
 - ▶ 公費解体、災害廃棄物処理を横断的に調整支援する専門支援機能を創設
 - ▶ 災害支援協定の制度化、廃棄物最終処分場の受入容量に係る特例制度を創設

③ 使用済みとなったリチウムイオン蓄電池等への対応

- ・市町村における分別回収の取組強化（令和7年度4月環境省通知）
- ・改正資源有効利用促進法に基づく製造事業者による自主回収・再資源化
- ・委託契約におけるリチウムイオン電池等の含有を明確にする仕組みの検討
- ・リチウムイオン電池による火災防止強化キャンペーン
9月～12月を「リチウムイオン電池による火災防止強化キャンペーン」期間とする。特に11月を「リチウムイオン電池による火災防止月間」とし周知啓発の強化を図る

(2) 北海道大学大学院 工学研究院 環境工学部門 石井一英教授 「持続可能な社会とサーキュラーエコノミー」



北海道大学大学院 石井教授

○ 持続可能性に関する現状認識

あとどれぐらいCO₂を排出しても良いか？産業革命以降だいたい2500ギガトンのCO₂を排出し気温が1℃上昇した。パリ協定では気温上昇を2℃以内あるいは1.5℃以内を目標にしているが、あとどれだけCO₂を出せるかは計算上決まっている。CO₂バジェットという考え方。2℃以内にするならばだいたい3400ギガトン。1.5℃以内にするにはあと500ギガトンぐらいしか出せない。

○ 最終エネルギー消費に対する再生可能エネルギーシェア

電気はエネルギー使用の23%。電気が再生可能エネルギーになってもカーボンニュートラルにはならない。

○ IEA（国際エネルギー機関）は2050年ネットゼロ（Net Zero by 2050）を目標としている。2020年から2030年へ向けて人口が増え活動量が増えるため黙っていると24%CO₂排出量が増える。それまでになんらかの手段でCO₂

排出量を50%下げたいが、2030年から2050年に向かってさらに活動量が増えるのでさらに対策をしないとネットゼロにはならない。エネルギー転換だけではネットゼロにならない。大事なのは行動変容。ひとりひとりの行動の変化が大事。

○ カーボンニュートラルとサーキュラーエコノミーとネイチャーポジティブは全部つながっている。バランスを見ながらやらなければならない。自然の質や量はどんどん低下していくが、これをなんとか食い止めるには自然保護だけじゃなくてゼロカーボン、あるいはサーキュラーエコノミーを一緒にやっ

○ 自分たちが作ったものを自分たちで集められる人たちが勝ち組になる。そういった企業と産廃事業者がタッグを組んで集める仕組みをうまくつくるのが大事。

○ 循環においては有害物質を分離しないと濃縮されていくので、分離し隔離する機能が必要。それがまさに最終処分場。循環型社会、サーキュラーエコノミー社会では最終処分場が絶対必要。

○ 資源循環に関しては「民間ルート」に着目している。北海道でいうとマテックさんの24時間じゅんかんコンビニ。リチウムイオン電池も電気屋だけでなくホームセンターでも回収している。いろいろなものを民間ルートに乗せていくことが大事。いままで主に官が担っていたが官と民が一緒になって循環を回していくことが必要。

4. 環境大臣表彰受賞式典

講演に続き、16時10分から、「令和7年度循環型社会形成功労者等環境大臣表彰」受賞式典が行われた。34名が表彰され、角倉局長から代表者に表彰状が授与された。最後に記念撮影が行われ、全国大会は終了した。



受賞者の皆さま

医療廃棄物研修会を開催

令和7年11月14日(金)、医療廃棄物委員会(五十嵐和代委員長)の主催による「医療廃棄物研修会」が、港区赤坂のホテルアジア会館にて開催された。本研修会では、公益社団法人東京都医師会会長尾崎治夫氏を講師にお招きし、「日本の医療・東京の医療の展望について」と題した貴重なご講演をいただいた。また、本講演の実現にご尽力いただいた衆議院議員であり医師でもある安藤たかお氏にもご臨席を賜った。五十嵐委員長の開会挨拶では、日頃からの医療廃棄物適正処理へのご理解とご協力に対し、深く謝意が述べられた。(株式会社トキワ薬品化工 伊丹重貴 記)



研修会の様子

○ 水銀血圧計・体温計・温度計の回収について

東京都医師会では、水銀血圧計・体温計・温度計の回収事業を行っている。尾崎会長は、東京都医師会副会長時代から医療廃棄物担当として事業に携わり、この問題に多大な貢献をされてきた。平成24年度から毎年実施しているこの回収事業については、あと2～3年のうちに終了させていきたいとの事であった。

○ 日本全体と東京都の医療需要の違い

日本全体の医療需要の現状と予測についての解説があった。日本全体としての外来診療は今年2025年、入院診療は2035年にピークを迎えた後に減少に転じると見込まれている。また、今年は団塊世代すべてが後期高齢者となり、在宅医療の需要は今後さらに高まると予測されている。

一方、東京都において医療需要は全国



安藤たかお 衆議院議員



尾崎治夫 会長



五十嵐 委員長

とは大きく異なる様相を呈しており、少子化は進んでいるが、現状では絶え間なく人口流入が続いており、2045年以降まで、外来・入院・在宅医療のすべての需要が増加し続けると予想されている。

少子・超高齢社会を迎えた日本の喫緊の課題に鋭く切り込み、「高齢者をどうサポートしていくかが見えていない」ことが大きな問題点であるとして、現状の優れた日本の医療体制を維持していくためには、「お金がかかる」ということを国民が理解しなければならないと強く訴えた。

○ 政治への要望と都民への呼びかけ

「東京都の病院を守ることは、結果的に都民の命を守ることに繋がる」と、この問題の重要性を改めて強調した。この重大な局面に対し、今後、政府がどうアクションしていくのかが極めて重要になると述べ、政治の早急な対応への期待と要望を表明した。

さらに、東京の医療崩壊を防ぐためには都民ひとりひとりの協力が必要不可欠であると呼びかけ、食事・運動・睡眠のバランスをしっかりと取り、喫煙を避け、健康寿命を延ばすための対策が必要であるとして、本講演を締め括った。

○ 東京都の病院が直面する危機

東京都による経営実態調査では、都内病院の約7割が赤字であり、東京都医師会等による要望に東京都が国に対して診療報酬の10%の引き上げを要望したことは、「極めて異例の事態である」と必要性和危機感を露わにされた。

東京都は全国で最も物価が高いにもかかわらず、診療報酬は全国一律。どう考えても東京都が一番苦しいのは明らかであり、具体的な改善策として、診療報酬の引き上げに加え、物価の上下に合わせた診療報酬の再設定が不可欠であると強く提言された。

○ 最後に

尾崎会長から今回の講演を通して、医療廃棄物業界に向けて非常に力強いメッセージがあり、医療と医療廃棄物の業界は非常に密接で、東京の医療が拡大すれば比例して医療系廃棄物処理の需要も上がる。ともに東京、日本の医療を支える者として、今後も尽力していく所存です。

尾崎会長、この度は大変貴重なご講演をいただき、誠にありがとうございました。

中間処理委員会〈破碎・圧縮分科会〉

施設見学会

中間処理委員会 破碎・圧縮分科会（二木玲子 座長）は令和7年10月20日(月)に神奈川県川崎市にある株式会社Jサーキュラーシステムの川崎スーパーソーティングセンターを視察した。見学には分科会メンバーとその社員、東京都産業資源循環協会事務局を含む計19名で参加。
(株式会社オネスト渡邊 真士 記)

同社は2023年7月にプラスチック資源循環促進法の施行や自治体・廃棄物業界・利害関係者のニーズを背景に、J&T環境株式会社、東日本旅客鉄道株式会社の3社が出資して設立された。JFEスチール東日本製鉄所構内に拠点を構え、国内最大級となる200t/日の使用済みプラスチック（一般廃棄物及び産業廃棄物）を処理する能力を備えており、選別から再商品化まで一貫した処理を行える。

自治体、事業者が回収した選別されていない使用済みプラスチックをそのまま受け入れることが可能で、今まで選別が困難なことから焼却処理となっていた使用済みプラスチックの再資源化を推進している。回収されたプラスチックは特性に応じてマテリアルリサイクルまたはケミカルリサイクルされ、近隣のリサイクル事業者と連携し、資源循環の高度化を図っている。

当日はJ&T環境株式会社 事業開発本部 マーケット戦略部 倉田様にご対応いただいた。まずは見学ルームにてJサーキュラーシステムの会社概要、設立の経緯、事業スキーム、立地、設備概要（選別・製造ラインのフロー図）を説明していただく。

その後センター場内に移動し、高度選別ラインおよびケミカルリサイクル原料製造ラインと場内でのルールを説明していただいた。

川崎市（日量15t）・大田区（日量10t）からのプラスチックは自治体ごとに保管・区分されている。それらをまずは高度選別ラインの破袋機にて開封、揺動選別機で選別をしていく。軽量物（揺動選別で上に行くもの）は手選別で異物除去後梱包機にてベール化、重量物（揺動選別で下に行くもの）は手選別、吊り下げ磁選機で異物除去後細粒物と合流し梱包機にてベール化、細粒物（揺動選別のパドルのメッシュを抜けて真下に落ちるもの）はマグネットプーリーを2台で異物除去後、重量物と合流し、梱包機にてベール化される。揺動選別後に手選別でPPと思われるものを光学選別機にて選別し、PPのみ粉碎されマテリアルリサイクルとして製品化される。その後一部の使用済みプラスチックはケミカルリサイクル原料製造ラインへと送られる。ケミカルリサイクル原料製造ラインでは二軸破碎機で使用済みプラスチックを粗破碎し、磁選機・アルミ選別機で不純物を除去、その後一軸破碎機でさらに細かく粉碎し風力選別かけられる。最後に成形機でケミカ



(左) 参加者一同 (右上) 広大な施設内 (右下) 揺動選別機

ルリサイクルに適した原料が製造され、外の製品置場にて保管し、決められた品質基準を満たすことで出荷される。

見学ルームに戻り質疑応答の時間をいただいた。

最後に、私見ではあるが、廃棄物の発生抑制と適正な循環的利用・処分により、天然資源の消費が抑制され、環境への負荷が出来る限り低減された社会である循環型社会の形成に向けて資源生産性・循環利用率を高める取組を一段と強化するためには、従来の大量生産・大量消費・大量廃棄型の経済・社会様式につながる一方通行型の線形経済から、持続可能な形で

資源を効率的・循環的に有効利用する循環経済への移行を推進することが重要である。循環型社会形成の駆動力となる循環経済への移行は、気候変動、生物多様性の損失、環境汚染等の社会的課題を解決し、産業競争力の強化、経済安全保障、地方創生、質の高い暮らしの実現にも繋がる。まさにJサーキュラーシステムはその先駆けとなり、日本のモデルになっていただきたいと思う。

また参加者19名の施設見学会を行っていただいたJサーキュラーシステム様と倉田様、関係者皆様に心より感謝申し上げます。

中間処理委員会〈中和・脱水分科会／焼却分科会〉

合同施設見学会

中間処理委員会 中和・脱水分科会 (柳澤正人 座長) および焼却分科会 (金子善敬 座長) は、令和7年10月21日(火)に福島県西白河郡泉崎村にある株式会社 京葉興業 福島事業所の焼却処理プラントを視察した。見学会には分科会メンバー5名が参加した。

(株式会社 シンシア 金子善敬 記)



参加者一同

今回見学を行った福島事業所は、敷地面積 32,834㎡を有し、福島県泉崎村中核工業団地内に位置している。平成2年(1990年)12月に焼却処理プラントを開設し、令和2年(2020年)に設備の全面改修を実施、現在の焼却処理施設として操業している。

焼却設備はロータリキルンストーカー炉とドラム缶炉の2系統で、処理能力は75t/日(混焼)である。汚泥、廃アルカリ、廃酸、廃プラスチック類などの産業廃棄物、および特定有害12項

目を含む特別管理産業廃棄物処分の許可を有し、適正な処理を行っている。特に廃アルカリ・廃酸の貯留タンクは1,240㎡を備え、汚泥や廃油を含む廃液類の処理能力が高い。施設内はクローズドシステムを採用しており、雨水の有効活用もしている。

また、本施設では令和2年よりバイナリー発電設備を導入。自社焼却施設で発生する高温空気を利用して発電を行っている。熱媒体には低沸点の有機流体を使用し、既存の白煙防止用の加熱空気か



(左上) 焼却施設
(右上) バイナリー発電設備
(左下) 施設説明の様子



ら採熱した有機流体は低温で気化して高圧となり、これが回転させる高効率タービンで発電するという、他に例を見ない高効率な発電方式を採用し、得られた電力は施設内設備で有効利用されている。

当日は、株式会社京葉興業 取締役執行役員常務 三浦様にご対応いただいた。まず会議室にて、会社概要、立地、処理プラントの沿革、設備概要(焼却フロー図、バイナリー発電設備)についてご説明を受けた。

その後、プラント場内に移動し、固形物の前処理を行う一軸破碎機・二軸破碎機、廃棄物受入ピット、廃液類貯留タンク、残渣除去用スクリーン受入設備、ロータリキルンストーカー炉、ドラム缶炉などの焼却設備、熱交換器やバイナリー発電機などの発電設備について説明を受けながら見学を行った。各設備は広い敷地

にゆとりをもって配置されており、搬入動線も明確で、安全面への配慮が感じられた。質疑応答も随時行われ、設備に対する理解を深めることができた。

今回の見学を通じ、焼却処理プラント全体に整理整頓が行き届いており、現場管理の精度と職員の意識水準が非常に高いと感じた。焼却設備・排ガス処理・バイナリー発電の各装置が有機的に連携しており、単なる「廃棄物処理施設」ではなく、エネルギー循環型環境拠点として完成度の高い施設であると強く印象を受けた。また、廃熱を利用したバイナリー発電によるCO₂削減・電力自給の取り組みは、今後の焼却処理施設における重要な先事例といえる。

最後に、お忙しい中施設見学会を実施して下さった株式会社京葉興業 福島事業所の皆様、ご説明・ご案内をいただいた三浦様、ならびに本見学会の運営にご尽力くださった関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

大阪近郊廃棄物処理施設、大阪・関西万博視察 及び関西ブロック青年部との交流会を実施

青年部(畠山孟賛 部長)は、令和7年10月9日(木)、大阪府の株式会社興徳クリーナー様、関西クリアセンター株式会社様の施設見学を行い、15名が参加しました。施設見学終了後には、関西ブロック青年部の皆様との交流会を実施、また、翌10日(金)にはEXPO2025大阪・関西万博にも足を運び、大変充実した視察となりました。

(白井エコセンター株式会社 白井 美菜 記)

■ 興徳クリーナー 岸之浦工場

こちらの工場では、主に廃液(廃油、廃酸、廃アルカリ)の中間処理を行っており、油水分離や中和・無害化の処分方法によって、最適な処理や元素レベルのリサイクルを可能にしています。特にお客様のご要望と廃液の性状等に応じた適正処理やリサイクルを提案し対応していることが印象的でした。これを可能としているのは、お客様ごとに搬入物を1つ1つ分析にかけており、分析機器の充実、分析者への教

育にも力をいれているからとご説明いただきました。

また、興徳クリーナーは2025年大阪・関西万博の大阪ヘルスケアパビリオンで「廃液から窒素資源を回収し、低炭素型肥料活用の取り組み～ゴミから花へ～」を展示されました。実際に展示された動画も拝見させていただきました。資源を循環させる取り組みが、一般の方にもわかりやすく紹介されていました。



(株)興徳クリーナー 岸之浦工場にて
(左) 参加者一同
(右) 施設見学

■ 関西クリアセンター 泉州プラント

こちらの工場では、建設廃棄物等混合廃棄物の破碎・選別処理と今年の5月に事業を開始した生物処理施設の中間処理を見学いたしました。破碎・選別処理は、1,000m³/日の受入能力を備えています。生物処理施設(膜分離活性汚泥法)では、食品系・有機汚泥などを微生物の力で分解・安定化処理をしています。主に食品工場排水、化学薬品製造排水、染色・洗浄排水処理が可能であり処理された汚泥、処理水は法令基準をクリアしたうえで場内再利用または下水道放流を行います。

放流時には定期的に水質検査を実施し、許可基準を満たした水のみを放流しています。洗車用の水としても再利用されるとのことです。この分野は今後の脱炭素・環境規制対応型の新技術として業界でも注目されています。

■ 関西ブロック青年部交流会

施設見学終了後には、関西ブロック青年部の皆様との交流会も実施されました。関西と関東における廃棄物業界の違いや、各社の今後の展望などを率直に語り合うことができ、大変有意義で楽しい時間とな



関西クリアセンター(株) 泉州プラントにて (左) 参加者一同 (右) 施設見学



関西ブロック青年部の皆様と

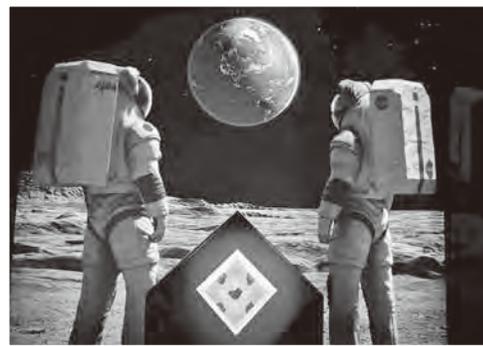
りました。次回の全国大会でも交流を深められるとのことで、再会を心より楽しみにしております。

■ EXPO2025 大阪・関西万博

全ての行程を終え、多くの来場者で賑わう大阪・関西万博を見学することができました。SDG's 達成への貢献、国家戦略 Society5.0 の実現をテーマにした各国の趣向を凝らしたパビリオンで人間と自然とテクノロジーが融合する未来を予見させるような沢山の素晴らしい展示をみる事ができました。万博で話題のグッズ販売に並んだり、大屋根を歩いてみたりと話題に事欠き

ませんが、55年前の大阪万博でも展示されて長蛇の列を作った米国館「月の石」を今回の万博で初めてみる事ができました。今回の月の石はアポロ17号が持ち帰ったもので、55年前の万博で展示されたアポロ12号の宇宙飛行士が持ち帰ったものではありませんでしたが、米国のアルテミス計画をはじめとする宇宙開発への夢を存分に味わう事ができました。

最後に、施設見学の受け入れに快くご対応いただいた株式会社興徳クリーナー様、関西クリアセンター株式会社様に心より御礼申し上げます。



大阪・関西万博にて (上) 公式キャラクターのミャクミャク前で (下左) 大阪・関西万博の象徴「大屋根リング」 (下右) 米国パビリオンの「月の石」

理事會・委員會報告

第102回理事会

開催日時：11月12日(水) 14時58分～16時55分

場所：協会会議室

出席者：理事18名 / 監事1名

議題：

1. 決議事項

- (1) 新入会員の承認
- (2) 区部支部会設置
- (3) 育児・介護休業に関する就業規則の改正

2. 協議事項

- (1) 令和8年賀詞交歓会

3. 報告事項

- (1) 協会役員の表彰受賞
- (2) 令和8年度東京都予算知事要望
- (3) 東京都廃棄物審議会の審議状況
- (4) 令和7年度国内処理施設見学研修会・全国大会
- (5) 災害廃棄物に係る23区・小金井市等の動き
- (6) 7～9月の事業報告
- (7) 月次会計報告及びマニフェスト販売状況
- (8) 産業廃棄物処理業者に対する行政処分
- (9) リチウムイオン電池問題に関する都議会質問

委員会報告・部会報告

次回開催日：第103回理事会 12月10日(水)

総務委員会 (鈴木 会長)

開催日時：11月12日(水) 14時～

場所：協会会議室

出席者：12名

議題：

- ① 令和7年度 協会の事業執行状況、委員会・部の活動について
- ② 令和8年度 活動計画と概算所要額調書の提出について

次回開催日：3月24日(火)

全国産業資源循環連合会女性部協議会 第4回全国女性部会のつどい

公益社団法人全国産業資源循環連合会女性部協議会（二木玲子 会長）は、令和7年10月31日（金）、グランドメルキュール札幌大通公園2階エンプレスホール（北海道札幌市）にて「第4回全国女性部会のつどい（講演会 & ランチ会）」を開催いたしました。13都道府県協会から廃棄物に携わっている女性部会員の方々や今回の開催地である北海道協会の青年部の皆様にもご参加いただき、総勢63名もの参加がございました。講演会では北海道協会の理事お二人を講師にお迎えし「北の大地における資源循環と産廃処理～厳寒の大地との共生～」をテーマにご講演をいただきました。



集合写真

株式会社 旭川浄化 常務取締役 吉田学 様によるご講演

大雪の中で行う一般家庭の廃棄物の回収現状をお聞きし、とても驚きました。雪で見えなくなっている廃棄物回収がどれほど大変か。雪で道も見えなくなっており、道を外れたトラックが横転してしまうことも結構あるということをお聞き

しました。雪で前が見えない道がどれほど恐ろしいものなのか、私達には想像もつかない事でした。下水道メンテナンスも行っており、冬は雪でマンホールの位置を捜すだけで大変とのこと。私達が普通に行っている作業が「雪」という自然からの産物により、困難である現状を聞くことができました。



ランチ会

株式会社 アンビエンテ丸大 代表取締役 西野尾 孝子様によるご講演

廃棄物処理業だけではなく、会社の隣接地を整備し「鈴なりの森」と名付けた森の自然の様子をYouTubeで動画配信もされております。また、鶏ふんを利用した有機肥料で育てた完熟トマトから「安全 & 安心なトマトジュース」を製造・販売まで行っており、廃棄物処理から、自然を守る活動、農作物の育成まで、多岐にわたる事業展開をされていることに感動いたしました。海外からの視察も受

入れ、世界に通用する日本の企業であることがわかりました。

ご講演の後には、北海道の食材をふんだんに使用したおいしいランチをいただきながら、それぞれのテーブル、各都道府県からいらした方々より各地域の廃棄物について、ご意見をお聞きすることができました。廃棄物業界における、今後の女性達の躍進が楽しみになりました。

（日本衛生 株式会社 吉田 利恵 記）

新 入 会 員 紹 介

コマツカスタマーサポート 株式会社 東京関越カンパニー

東京関越カンパニー社長 砂山 雅彦

賛助会員 業種グループ：機械・機材の製造・販売業

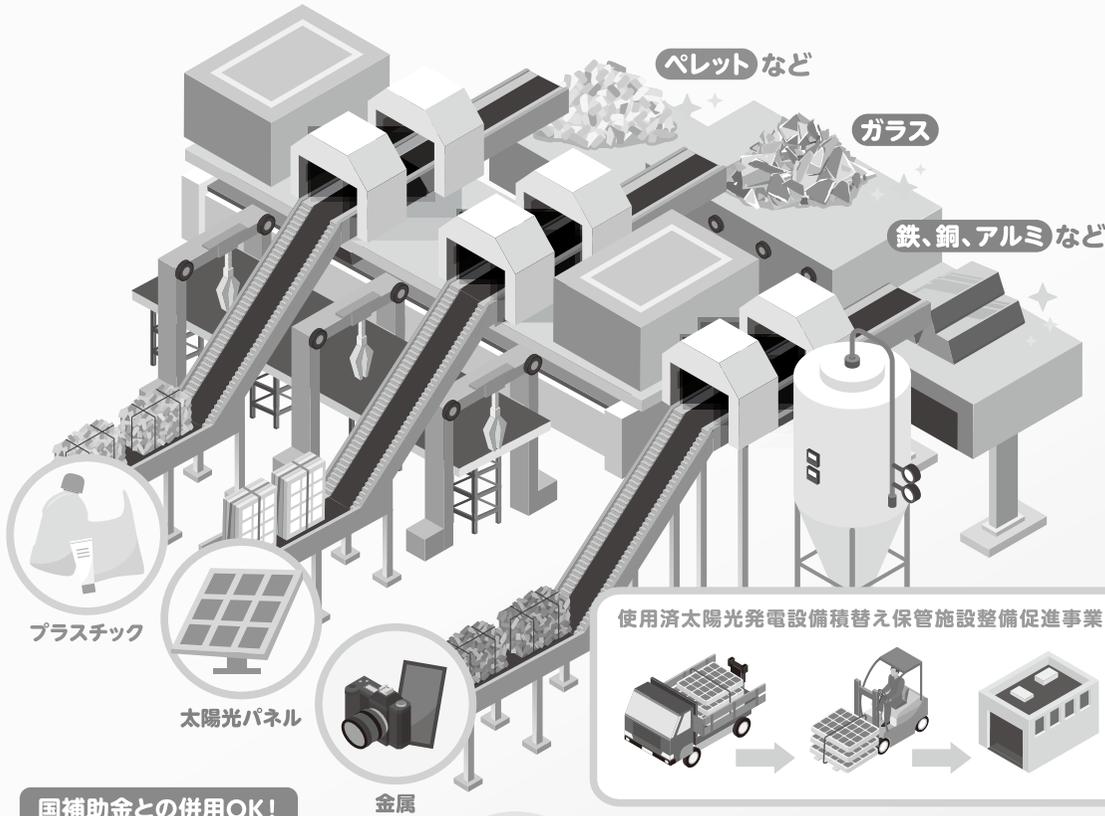
〒108-0072 東京都港区白金1-17-3 NBFプラチナタワー3階
☎050(3486)4147

東京都環境局

HTT
TokyoTokyo

東京都補助事業 産廃処理事業者向け

高度再資源化設備 導入費用を 東京都が一部補助します！



国補助金との併用OK!

自己負担分の **1/2** が補助されます！ ※上限あり

東京のくらしから、地球の明日をつくっていく

公益財団法人 東京都環境公社

詳細は裏面へ

高度再資源化設備導入促進事業 使用済太陽光発電設備 積替え保管施設整備促進事業

補助対象者
東京都内の
事業所限定

高度再資源化、再資源化の効率向上に資する廃棄物（プラスチック、太陽光パネル、金属）の
破砕・選別又はリサイクル設備等の導入を行う事業者等

使用済太陽光発電設備等の積替え保管施設の整備及び設置を行う事業者等

補助対象経費

廃プラスチック類等のリサイクル設備導入に要する費用又は
太陽光発電設備等のリサイクル積替え保管施設の設置等に要する費用の一部

補助金額

補助対象施設（設備）	補助対象経費	補助率	補助上限額
1 プラスチックリサイクル設備	設計費 設備工事費 諸経費等	1/2	5,000万円
2 太陽光パネルリサイクル設備			4,000万円
3 金属破砕・選別設備			7,500万円
4 太陽光パネル積替え保管施設			200万円

補助内容詳細



1 2 3 は、国補助で交付決定を受けていることが補助要件となります。
国・都の各事業で補助対象者の基準が異なるため、2パターン存在します。

補助対象期間

交付の決定の通知を受けた日から最長で**5年間**

申請受付期間

令和**7年6月10日** ~ 令和**12年12月31日**

詳細HP

<https://www.tokyokankyo.jp/apply/koudo-saishigen/>

東京都環境公社 高度再資源化



<https://www.tokyokankyo.jp/apply/pvstorage/>

東京都環境公社 使用済太陽光発電設備



お問い合わせ先

公益財団法人東京都環境公社 環境共生部 環境事業課 事業運営係

〒130-0022

東京都墨田区江東橋4-26-5 東京トラフィック錦糸町ビル5階

電話番号：03-6666-9272

受付時間：月曜日-金曜日（祝祭日・年末年始を除く） 9:00-17:00（12:00-13:00を除く）



産業資源 株式会社 サナース (賛助会員)

循環情報

No. 50

株式会社サナース 処理ラインの適正化と
機械能力の最大化に向けて 4Sのススメ

株式会社サナースは機械工学分野において優れた歴史を持ち、環境先進国と呼ばれているドイツを中心にヨーロッパで開発された環境関連機械などを日本にご紹介し、関連技術を提供しています。日本の資源循環業界では、現在高度化の波が押し寄せ、選別精度、安定的な処理能力、採算性など様々な課題と、技術力を上げていくことが求められています。高度化に当たり各社様々なアプローチに取り組まれているかと思いますが、導入されている機器が最大限に能力を発揮しているか、今一度確認されてみてはいかがでしょうか。

資源として再活用するには、選別のプロセスは欠かせません。その結果が会社の収益と、顧客の信頼を左右するといっても過言ではないでしょう。そんな期待を込めて導入をされた選別機が本来のパフォーマンスを発揮しているかは、非常に重要なポイントです。果たして導入に当たって思い描いていた結果が出ているか。まずは足元をチェックしてみませんか？



5月開催 施設見学会の様子
(来年度も開催いたします)

チェックポイントとしては、①想定していた処理能力が発揮されているか ②想定されていた分別/選別精度は出ているか ③処理能力のボトルネックがどこにあるかです。

もし、想定よりもパフォーマンスが出ていないのであれば、なぜ能力を発揮できていないのかをポイントを踏まえ、改めて検証をしてみてください。

高度選別を実現するセンサー選別機が最大のパフォーマンスを発揮できる環境を整える。その目標に向け我々は高度選別を実現する4つのコンセプト「4S」を推奨しています。

- ① Stream Management ストリームマネジメント (定量供給)
- ② Screening スクリーニング (粒度管理)
- ③ Segregation セグリゲーション (物性分別)
- ④ Sorting ソーティング (高度選別)

1つ目のポイントは、ストリームマネジメント (定量供給) です。ラインにおける後



SSLのテストライン 全景

段機器を効率よく稼働させるには材料を安定的に流し続けることが重要。物量が一定しないラインにはトラブルが起きやすく、分別、選別精度も悪くなります。

2つ目はスクリーニング (粒度選別)。定量に投入されたものをその先の機械の性能に合わせて粒度をそろえていきます。その後の風力選別、磁力選別も含めた全ての工程において粒度がそろっていることはとても重要なことです。

3つ目はセグリゲーション (物性分別)。重量、磁性、などで物性選別をかけ、物性ごとにさらなる選別かけられるようにする。このセグリゲーションの工程で分別できるものをしっかり分けておく事で後段機器の高額なセンサーソーターを無駄のない適切な仕様にする事ができ、また選別精度も上げることが可能となります。

そして、ソーティング (高度選別)。流れてくるものが定量で、粒度がそろっていて、物性分別後であれば、センサーを駆使した高度選別の工程では最大限の能力を発揮

することができます。

私たちサナースでは、この4Sコンセプトを実証する施設、SSL (サナース・ソーティング・ラボ) を千葉県富津市に設置しています。

ストリームマネジメントに振動フィーダータイプの定量供給機、スクリーニングに2段式の3Dスクリーン選別機。セグリゲーションに循環式風力選別機と渦電流選別機。そしてソーティングの工程では高度選別機のコンビネーションソーター (透過X線センサー XRT 含む) 選別機、近赤外線選別機。

これらが、切り替え可能なコンベアでつながっており、4Sの流れを日常の処理量に合わせて検証をすることができ、4Sを考慮した選別提案をすることができます。ラインのパフォーマンスの最大化にぜひお役立てください。

(株式会社 サナース

代表取締役 阿部 智)

表紙の言葉

●今月の写真： [防災公園] 林試の森公園 (目黒区、品川区)



ここは明治33年(1900年)6月に当時の農商務省林野整理局が「目黒試験苗圃」としてスタートしたのが始まりで、その後「林業試験場」に名称を変更、林野庁の付属となり昭和53年まで営々として使用されてきました。

そして、筑波研究学園都市の建設に伴い、移転した跡地を整備し、「目黒公園」の暫定開放期間を経て、平成元年6月1日に「都立林試の森公園」として生まれ変わり開園しました。

この公園は東西に700m、南北に250mと細長く、外周の園路をぐるっと一周すると45分程で廻ることができます。

林試の森公園 → ★

●参照： (公財) 東京都公園協会HPほか

●撮影者： 塩沢 美樹 (機関誌編集担当)

所在地： 目黒区下目黒五丁目、品川区小山台二丁目

アクセス： JR 渋谷駅からバスで「林試の森入口」下車 徒歩1分ほか

インド旅行記②

～砂漠の街ジャaisalメールでの出会いと気づき～

前回の続き。ムンバイから、パキスタンとの国境に近いインド北西部の街「ジャaisalメール」へ飛んだ。タール砂漠の中央部に位置し、ほぼすべての建物が近郊で採れる砂岩で造られているため、夕暮れ時には街全体が金色に輝いて見え、「ゴールデン・シティ」とも呼ばれる美しい都市である。毎年2月の満月の時期には「砂漠祭り」が開催され、これが今回のインド旅行の最大の目的でもあった。なお、この地域の夏は非常に暑く、灼熱のため空港が数ヶ月閉鎖されるという。



砂漠を満喫するため、私たちはキャンプ地へ向かった。ラクダに揺られながら、砂漠サファリへ出発。キャンプ地といっても、設備が整っているわけではなく、ただ砂漠の窪地に簡易ベッドが並べてあるだけだった。ガイドの方たちは、持参した食材をその場で切るところから始め、焚き火で2種類のカレーを時間をかけて丁寧に作ってくれた。特にマトンカレーはとても美味しかった。食後、片づけの様子を見ると、使用済みの食器は水を少し掛け、砂でこすって洗っていた。砂漠ならではの知恵であり、効率的かつエコだと感じた。

日が沈むと空気が一気に冷え込んだ。そして今夜の寝床は、なんと砂漠の真ん中。テントもなく、簡易ベッドの上での人生初の野宿体験。満天の星は満月の光に霞んでしまったが、輝く月を見上げながら、



ラクダに乗ってキャンプ地まで移動



ラクダから布団を下ろすガイド

ラクダが運んでくれた布団にくるまり眠りについた。

ジャaisalメールという都市は、12世紀に中央アジアやエジプトとの中継貿易の拠点として栄えた。ラクダに乗った往来の商人たちが、かつて隊商宿として栄えたこのオアシスで休息を取ったのだろう。女性たちが今も着ている民族衣装のサリーは非常にカラフルで華やかだった。それとは対照的に、男性の服装はシックで襟付きのシャツを着ている人が多い。サリーを扱う店主に理由を尋ねると冗談交じりに、「女性を引き立てるために、男性の服装は地味にしている」とのこと。



世界遺産ジャaisalメール城と音楽隊



キャンプの翌日、街に戻り、城郭都市の中心にあるジャaisalメール城を見学していると、にぎやかな音楽隊が城から隊列を組んで出ていく場面に遭遇。私たちも他の見学者とともに、その列に続いた。まるで「ハーメルンの笛吹き男」のような行進である。これは砂漠祭りの一環で、街中に点在するかつての豪商の邸宅を巡る催しだった。

その道中、姪が隣にいたインド人女性と会話を始めた。どうやら彼女（以下Aさん）は、私と同年代で、1000km離れたムンバイから70代のお母さんとともに砂漠祭りのために車で来たのだという。話の流れで、翌日車で祭りの開催地を巡るから一緒に行かないか、と誘ってくれた。私たちはありがたくその申し出を受けた。



翌朝、Aさんの車に乗せてもらい、まずは35km離れた「カバ・フォート」という遺跡へ向かった。その後さらに16km先の「クルドハラ村」へ。この地域はかつて85の村々が数百年にわたり栄えたが、19世紀初頭に突然一夜にしてすべてが消え



クルドハラ 失われた村

たという伝説がある。崩れかけたレンガ造りの家々は、今はほとんど屋根もない。消滅の理由は諸説あるが、有力なのは権力者の横暴や重税、生活苦による住民の集団脱出だという。政治や経済の問題が人々の暮らしを変えてしまうのは、昔も今も変わらないと感じさせられた。

移動中、Aさんが日本で体験を話してくれた。1カ月ほど休暇で滞在していたそうで、「トイレは信じられないほどきれい」「ベジタリアンでも食事に困らなかつ



インド・スリランカ概略図



砂漠祭り (上) 最後の締めめのフェスティバル
(右) 装飾を施されたラクダ



た」「公共交通機関の料金が高く感じた」と語っていた。私の今回の休暇日数を尋ねられ、「1週間(しかもかなり頑張って取った)」と答えると、「短すぎる! 1カ月は必要よ」と驚かれた。確かに、1カ月も休みが取れたらどんなに素晴らしいだろう。けれど社員全員が1カ月休暇を取ったら…と考え、すぐに現実に引き戻された。日本でもいつか、当たり前前に長期休暇を取れる日が来るのだろうか。



その後も、馬やラクダの競争、演舞などを観に2か所を巡り、最後には砂漠フェスティバルにも参加。ここでも大きな満月を背景に、多くの現地の人と観光客が人気ミュージシャンの陽気な音楽と踊りに魅入った。体力を使い切るほど濃厚な1日となり、日付が変わる頃にAさん親子と別れた。気ままな旅だからこそ、こうした一期一会の出会いを活かすことができた。そして、日本から来た私たちを心から楽しませてくれたAさん親子には、感謝の気持ちでいっぱいだ。

インドには、課題も多くあるのだろう。しかし私たちが出会った人々は、皆優しく、たくましく、時にはシャイで、とても温かかった。帰路、ムンバイからスリランカのコロomboへ移動し、1日過ごしたが、スリランカの人々もまた、私たちを歓迎してくれた。

世界には、歴史や地理、宗教や考え方など、それぞれ異なる常識が存在している。日本の常識は、決して世界の常識ではない。自分の頭を柔軟にするには、世界へ足を運ぶことが何よりのチャンスであり、また、日本という素晴らしい国に生まれたことに感謝する絶好の機会でもあるのだと思った。

さあ、次はどこに旅に行こうか。(M)

協会の主な今後の日程

(令和7年12月10日現在)

月	日	曜日	行事予定	備考
1	9	金	関東地域協議会 事務担当者会議	(当協会開催幹事)
	14	水	広報委員会 10:00~	協会会議室
			三役会議 / 常任理事会 / 第104回理事会	協会会議室
	15	木	全産連 ; 理事会 / 賀詞交歓会	明治記念会館
	16	金	東京都廃棄物審議会(オンライン) 10:00~12:00	●会長
	19	月	女性部 幹事会 14:00~	外部会議室
	26	月	賀詞交歓会・安全衛生推進大会	ホテルニューオータニ(千代田区)
	27	火	青年部 幹事会 13:00~	外部会議室
2	3	火	全産連:全国正会員事務局責任者会議(ハイブリッド) 14:00~16:30(オンライン参加)	
	5	木	中和・脱水分科会 15:00~	協会会議室
	6	金	多摩支部 適正処理意見交換会 14:00~	たましん RISURUホール(立川市)
	12	木	広報委員会 10:00~	協会会議室
	13	金	収集運搬委員会 15:00~	協会会議室
			全産連:全国正会員会長会議(徳島県)	徳島グランヴィオリホテル
	17	火	破碎・圧縮分科会 15:00~	協会会議室
	18	水	青年部 幹事会 15:00~	協会会議室
	19	木	女性部 幹事会 14:00~ / 法律勉強会	協会会議室
	20	金	法制度検討委員会 15:00~	協会会議室
24	火	人材確保プロジェクト 14:00~	協会会議室	
		一都三県建設混合廃棄物意見交換会	エッサム神田ホール1号館(千代田区)	

事務局だより

2025年も残すところあとわずかとなりました。日頃より当協会の活動に対し、ご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

今年も会員の皆さま、関係各所のご協力のもと、委員会・部会活動が活発に行われました。脱炭素化、資源循環とサーキュラーエコノミーへの移行、DXの推進、災害廃棄物への対応体制の構築、リチウムイオン電池、労働災害防止、人材の確保・定着等に関する調査研究や対応策の検討等に熱心に取り組んでいただきました。委員会・部会主催による勉強会、講演会、見学会等も盛んに実施され、多くの皆さまにご参加いただき、情報共有、意見交換を行うことができました。1月には安全衛生推進委員会の企画・運営により、当協会としては初めての「安全衛生推進大会」が開催されました。

11月には再資源化事業等高度化法が全面施行となりましたが、情報発信、データ収集、分析等、協会の果たす役割もますます重要となります。

来る2026年は、より一層皆さまのご期待に応えられるよう、事務局一同、尽力してまいります。変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

寒さ厳しき折、皆さまにおかれましても、どうかご自愛いただき、輝かしい新年をお迎えになられますよう、心よりお祈り申し上げます。

編集後記

今年も、皆様より協会活動へのご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。大変お世話になりました。

さて、この一年を振り返ってみますと、これまでにない記録的な気象災害の記憶が数多く蘇ります。地球規模の温暖化に加えて、偏西風と黒潮の北上とダブル高気圧も相まって、異常な暑さによる熱中症、野菜の不作に注目が集まりました。また、短時間の大雪、大雨と土砂災害や、竜巻の同時多発による気象災害も深刻で、災害廃棄物の観点からも、都市や生活圏の脆弱さが全国の各地で顕在化した年でした。

一方、年末に発表された新語・流行語大賞は、「働いて働いて働いて働いて働いてまいります」でした。「トランプ関税」や「戦後80年/昭和100年」を抑えての年間大賞。賛否両論あるようですが、昭和世代からは、ちらほら共感するとの声も聞こえてきます。

そして本誌「とうきょうさんばい」で、この一年間様々な内容の情報が発信されましたが、多く掲載された内容は、「リチウムイオン電池関連」と「安全衛生関連」の記事でした。「高度化法関連」の記事が少なかったように思いますので、来年はその点も新しい情報がご提供できるように努めたいと思います。また、新コーナーの「Tea Break」がスタートしました。風の便りによるとどうやら好評なようです。今後ご期待ください。

令和7年も、残すところあと数日となりました。皆様、佳き年越しとされますことを、広報委員会一同心よりお祈り申し上げます。

(森)

とうきょうさんばい

第42巻第10号通巻第424号

令和8年1月1日発行

発行人
企画・編集
発行

鈴木宏和
広報委員会

一般社団法人 東京都産業資源循環協会

〒101-0047 東京都千代田区内神田1-9-13 柿沼ビル7F

TEL 03(5283)5455(代表) FAX 03(5283)5592

https://tosankyo.or.jp E-mail:info@tosankyo.or.jp



身近な

ヒヤリ・ハット事例

Part 197



東京労働局管内の産業廃棄物業種における労働災害発生状況(令和7年1月~10月累計)

死亡者数

0

名

協会年間目標数 0名

休業4日以上の死傷者数

73

名

前年同月比 -34名
協会年間目標数 81名以内

出所：厚生労働省 職場のあんぜんサイトより、労働災害事例→ヒヤリハット事例集
労働災害統計→労働災害発生速報値、「死亡災害報告」による死亡災害発生状況、「労働者死傷病報告」による死傷災害発生状況

ヒヤリ・ハット事例

中間処理施設でスクリーコンベアの排水口詰まり除去作業中、棒で突っついて詰まり除去作業をしていたが、スクリーを動かしながら行っていったため棒が巻き込まれた。

類似事例1

木材加工所でかな盤のローラーの清掃中に衣服が巻き込まれ、胸部圧迫骨折等の重症を負った。



類似事例2

投入コンベアを停止させずにローラー一部の掃除を行っていたところ、右腕から胸のあたりまでを巻き込まれた。



※ QRコードが隣接しているため、片方を手や紙などで隠していただくと読み取りやすくなります

出典：厚生労働省 職場のあんぜんサイト「労働災害事例集」「ヒヤリハット事例集」より
類似事例のイラストは同サイトの画像をもとに当協会にて加工して作成

☞ https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen/sai/sai_new241220.html

またはコチラ→



第4回 安全衛生標語コンクール 佳作 受賞作品

保護具つけ 事故無し怪我無し プロ集団

第2回 安全衛生 推進大会

SAFETY AND HEALTH CONFERENCE

経営が安全を語らなければ
事故は止まらない。

2026. 1.26 月

開催時間 15:00 ~ 16:45 (予定)

会場 ホテルニューオータニ
(〒102-8578 東京都千代田区紀尾井町4-1)

詳細につきましては後ほどご案内いたします。
恐縮ですがご予約の確保をお願い申し上げます。

一般社団法人東京都産業資源循環協会 安全衛生推進委員会
e-mail : anzen@tosankyo.or.jp
TEL. 03-5283-5455



創業64年、人々が安心して生活できる
安全で快適な環境づくりに貢献します



練馬の大地
おいしい作物は元気な土づくりから...
弊社の資源リサイクルセンターにて学校給食残さをリサイクルし、良質の土壌改良材を精製しております。

廃棄物処理

- ◆一般廃棄物収集運搬
- ◆産業廃棄物収集運搬
- ◆医療系廃棄物
- ◆資源リサイクル

警備

- ◆施設警備
- ◆駐車場管理
- ◆交通・雑路警備

建物清掃

- ◆日常清掃
- ◆定期清掃
- ◆浄化槽・貯水槽清掃

環境衛生

- ◆空気環境測定
- ◆水質検査
- ◆害虫駆除

**総合ビルメンテナンス
株式会社 五十嵐商会**

[本社] 〒177-0032 東京都練馬区谷原6-24-8 TEL03(3922)7547 FAX03(3978)1533

<http://www.igarashisyokai.co.jp>

PCBの処理期限までの**全量廃棄**を目指します
PCBに関するあらゆる問題をワンストップで解決していきます

全数調査



選別調査



分析・運搬業務



申請サポート



解体や全数調査時に新たにPCB廃棄物が見つかる事例があります。
調査漏れが不安な方はお気軽にご相談ください。

北九州事業エリアで
処分期間後に発見された
高濃度PCB廃棄物
196件
(令和2年10月末現在)
環境省 <http://www.env.go.jp/recycle/poly/confs/tekisei/28pcb.html>

KATO 加藤商事株式会社
<http://www.katosyoji.tokyo>

未来の地球に持続可能な環境を創る企業

本社 〒189-0011 東京都東村山市恩多町1-12-3
TEL: 042-392-1001 FAX: 042-394-1453

赤坂営業所 〒107-0052 東京都港区赤坂4-4-14未来環境創造ビル1F
TEL: 03-6277-7187 FAX: 03-6277-7197

一般社団法人日本PCB
全量廃棄促進協会 (JPTA)   
会員企業